九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Correlation between Thyroid Stimulating Hormone and Renal Function in Euthyroid Residents of Japan:Results from the Kyushu and Okinawa Population Study(KOPS)

田中, 佑樹

https://doi.org/10.15017/1931782

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：(c) Japan Atherosclerosis Society. CC BY-NC-SA

（別紙様式２）

氏　　名	田中　佑樹
論　文　名	Correlation between Thyroid Stimulating Hormone and Renal Function in Euthyroid Residents of Japan: Results from the Kyushu and Okinawa Population Study(KOPS)
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　鴨打　正浩 副　査　　九州大学　　教授　　萩原　明人 副　査　　九州大学　　教授　　江藤　正俊

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

一般住民健常者における甲状腺機能正常範囲内の血清甲状腺刺激ホルモン thyroid stimulating hormone（以下 TSH とする）値と腎機能との関連を評価した。

対象は、2012 年に九州の1地域で住民健診を受診した 1,374 例のうち、文書で同意が得られた 888 例の健常者である。対象者を TSH 正常低値群、TSH 正常高値群、潜在性甲状腺機能低下症群の 3 群に分類し、対象者全体と 3 群それぞれにおいて解析を行った。

対象 888 例の血清 TSH の平均値は 2.0±1.4 μIU/mL であった。対象者のうち 75.9 %（674 例）が TSH 正常低値群、17.9 %（159 例）が TSH 正常高値群、6.2 %（55 例）が潜在性甲状腺機能低下症群に該当した。推算糸球体濾過量は、血清 TSH 値高値に伴って有意かつ段階的に低値となった（TSH 正常低値群 79.3±14.1；TSH 正常高値群 77.4±13.0；潜在性甲状腺機能低下症群 72.3±12.2mL/min/1.73m^2：P for trend <0.01）。重回帰分析では、TSH 値と腎機能との独立した関連は TSH 正常高値群のみで認められた(beta 値=−0.18、P 値=0.02)。

これらの結果から、一般住民健常者において、潜在的な甲状腺機能障害に伴う腎機能低下が血清 TSH 正常高値の段階から生じている可能性が示唆された。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々の質問を行なったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。